

◆ 平成27年度活動報告シート ◆

団体名：一般社団法人日本オオカミ協会 埼玉県支部

代表者：支部長 岩堀弘明

URL : <http://www.japan-wolf.org/>

1. 活動が必要とされた状況

シカ、サル、イノシシなどの増加による日本生態系への破壊的影響は有効策が無いままに全国的に拡大し、激しさを増すばかりです。この惨状を打開するには、自然生態系の食物連鎖の「かなめ」である頂点捕食者「オオカミ」の復活を急ぐことが必要です。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

オオカミ導入の早期実現のためには、更に多くの国民の支持を獲得し、行政への働きかけを一層強めることがかかせません。上記の活動強化のため「日米独オオカミシンポ2015：復活と保護」を全国6カ所で企画、開催しました。

①2015年6月8日（月）「日米独オオカミシンポ2015：復活と保護」 in 川越

米独からオオカミ保護に日常的に取り組んでいる専門家を招き、当会会長丸山直樹東京農工大学名誉教授を含む3名が基調講演を行い、生物多様性の確保のためのオオカミ導入の必要性、オオカミ導入により生態系の修復に成功した米・独の先進事例を学びました。



パネルディスカッションでは会場からの質問に専門家達が答えました。参加者300名。

②2015年6月8日（月）「世界のオオカミ学者と子ども達との交流会」

埼玉県支部単独で企画。川越市内の中学生を中心に57名の子ども達が参加しました。

子ども達が世界のオオカミ学者と直接話し、質問できる場を設けることで、いま日本の山林で起きている現実に触れ、問題意識を持ってくれることを期待して開催しました。



3. 活動の成果

①米独の先進事例を学び、その被害状況の違いも認識することが出来ました。参考にできること、日本独自に対策方法を確立しなければならないことが明確になり、方向性を見いだせたこと、参加者の皆さんに深刻な現状とオオカミ導入の必要性を広報できたこと、など大変有意義な活動となりました。

②教育委員会を通じて市内の中学校に開催案内をしたところ、授業で生態系のことを学んでいるので、校長先生、担当教諭引率で多数の生徒の参加申込を受けました。生徒から専門家の方々に率直な質問が出て、大変活発なやり取りが続き、予定時間を上回るほどでした。子ども達が、日本、海外の学者と直接交流する貴重な経験を得て、生物多様性保護の重要性について考えるきっかけとなり、開催の目的の一端が果たせたと認識しています。

4. 今後に残された課題

わが国におけるシカやイノシシの増加に伴う自然生態系の破壊は看過できない喫緊の課題です。今後も継続的に講演会等を開催して、地域住民並びに広くメディアに対して、オオカミ復活の必要性を強力に訴え、これを国民の声として行政が受け止め、その実現にむけ動き出すことを期待し、活動してまいります。